



第1879回 例会

2012-13年度RI会長: 田中 作次
 第2640地区ガバナー: 北中 登一
 創立: 昭和49年5月15日
 会長: 橋本隆
 幹事: 吉本正美
 会報: 前田吉彦



VOL. 39 No. 37

2013年4月17日 (水)

事務所: 田辺市下屋敷町81-10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会: 毎週水曜日 12:30~

司会者 橋本 隆 会長

唱歌

“ 花 ”

野村 憲司 君



ヴィジター

田辺はまゆうロータリークラブ

廣畑 順一 様

出席報告

会員数	義務免除	欠席者数	本日出席率
52名	6名	11名	76.09%
4月3日修正出席率 93.62%			

ゲスト

子どもNPO和歌山県センター
 センター理事長 岡本 瑞子 様
 米山記念奨学会 奨学生
 権 梅紅 様

ニコニコ箱

(敬称略)

◇お世話になります。 田辺はまゆうRC 廣畑様

◇子どもNPO和歌山県センター 岡本 瑞子様
 をお迎えして。

藍畑・後藤・橋本・本田・木村・小山・丸山博・
 中川・野村・佐田・竹村・谷中・玉置・上原・
 早稲田・吉田

◇米山奨学生 権梅紅様を宜しくお願ひします。

坂本

◇お花頂きます。

安井

に出席の米田代表議員の壮行会に、地区委員の坂本
 正人君と平野好史君に出席していただきました。ご
 苦労様でした。

■4月16日(火)龍神プロバスケットボールクラブ創立7周年記念大会
 へ出席して参りました。

■4月18日(木)田辺RC創立60周年記念例会へ出席して
 参ります。

■4月10日の定例理事会の報告を致します。

◎出席義務免除の件(福留君、内芝君、宇都君)…承認

◎3月13日の出席義務免除の件(橋本君、佐田君)…承認

◎3月13日の葬儀での受付等をメイクアップとする件
 …承認

◎南方熊楠顕彰会 会費納付について…承認

会長報告

■本日のお客様は、子どもNPO和歌山県センター
 センター理事長 岡本 瑞子 (おかもと みつこ)
 様です。後ほど宜しくお願ひ致します。

■本日のもう一人のお客様は、米山記念奨学生の権
 梅紅 (ケン バイコウ) さんです。カウンセラーは
 畔田 実君です。

■4月13日(土)米山奨学生・カウンセラー オリエンテー
 ションが開催されました。カウンセラーの畔田実君、
 出席ご苦労様でした。

■4月13日(土)、米国で開催される「2013年規定審議会」

幹事報告

■例会日時変更

◎田辺はまゆうRC

4月23日(火)→ 4月21日(日)18:30~

場所: シティプラザホテル<家族親睦例会>

4月30日(火)→ 休会

◎田辺RC

5月 2日(木)→ 休会

◎御坊東RC

5月 1日(水)→ 4月29日(祝日)午前10時~

場所: 国際海岸クリーンアップ (煙樹ヶ浜)

- ◎有田RC 5月2日(木)→ 休会
- ◎海南西RC 5月2日(木)→ 休会
- ◎和歌山東RC 5月2日(木)→ 休会

子どもNPO和歌山県センター
センター理事長

岡本 瑞子(みつこ) 様

■メイクアップ

- ◎4月13日(土)
米山・カウンセラー オリエンテーション 畔田君
- ◎4月13日(土)
「2013年規定審議会」出席の米田代表議員の壮行会
坂本君・平野君
- ◎4月16日(火)龍神プロバスクラブ創立7周年記念大会
橋本君

■回覧

- ◎週報「橋本RC」
- ◎「シーカ96号」「ハイライトよねやま157号」
- ◎「英語版ロータリアン4月号」
- ◎「ロータリー補助金ニュース」
- ◎ガバナーエレクト事務所より
「2013～2014年度のための地区協議会開催について」
- ◎ガバナー事務所より「第32回青少年・ライラ研修セミナーの御礼」と「修了証」
- ◎「第23回 日本ロータリー親睦ゴルフ 北海道大会のご案内」

米山記念奨学生



米山記念奨学会 奨学生

権 梅紅(ケン バイコウ) 様

中国 吉林省出身 26歳
和歌山大学 経済学研究科 市場環境学専攻

本日のプログラム



電話でつながる心の居場所チャイルドライン

全ての子どもたちが豊かに育つ地域社会をみざして長年活動しています。

主な活動は子どもたちの声を聴くチャイルドラインです。チャイルドラインで子どもたちの声を聴く中から乳幼児期からの子育て支援が必要と感じ、親と子の居場所「キッズステーション」を始めました。

そしてみえてきたのが外に出られない子育て中の親たちが子育ての悩みや愚痴を言える場、ママパパラインの必要性です。

また元気な子どもたちだけでなく入院中の子どもたちと付き添いの親御さんたちに笑顔を届けたいという思いで小児科病棟にアートを届ける活動をしています。

チャイルドラインわかやまの活動についてお話させていただきます。チャイルドラインというのは18才までの子どもがかける子ども専用の電話です。

相談電話ではなく、何を話してもいい愚痴であっても日常生活の些細なこと等、誰かと話してみたいな～と思った時にかける電話です。

1970年代にヨーロッパで始まりました。イギリスではチャイルドラインの番号を知らない人はいませんが、日本ではまだまだです。日本では1998年に始まり、和歌山では1999年に始めました。(日本で4番目ぐらい)きっかけは1990年代半ば、子ども同士が被害者になったり加害者になってしまったりするような出来事、いじめ、自殺、暴力等、わたしたち大人の想像をはるかに超える出来事がたくさん起こっていました。生きづらさを抱えて苦しむ子どもたちの本音、心の叫びをききたい。子どもが本来持っている力を信じたいと思ったからです。

子どもが豊かに育つ環境を作るのは大人の責任です。日本では聞き慣れないチャイルドラインですが、子どもたちにとっては電話でつながる心の居場所であると思います。

電話だから話せる、顔が見えないから話せる、知らない人だから話せる。

日本全国で46都道府県で夕方4時～9時までという限定はありますが、いつでもかけたい時にかけられる18才以下の子どもだけがかけられる子ども専用の電話です。子ども専用ということがとっても大事でそれは、100%子どもの側に立つということです。子どもの気持ちに寄り添い、共感するということです。

チャイルドラインは子どものための電話ですから、もちろん子どもが主人公です。

子どもの主体性を奪わないで子ども自身が考えたりサポートしていくことを大切にしています。しかし大人が答えを出してしまうこともあって、しまった！と慌てて「そういう風に考えてみてはどうかしら？」と付け加えることもあったり、聴く人は努力しています。大人はつつい長く生きてきた経験から価値観が固まっており、指示や説教、助言をしたくなってしまうんです。

なんでもかんでも子どもの言うことをきくのかという人もいますが、例えば社会的に許されないことに対しては理解や共感は出来なくても、そこにいたらざるを得なかった気持ちを聴くことはできます。辛さをわかってあげられます。自分の気持ちを真剣に聴いてくれる人がいるということが人への信頼を育てていくと私は信じます。人を信頼できるということは人間としての土台づくりとしてとっても大切なことです。とにかく100%子どもの側に立つことを心がけています。それは子どもの声を聴くことで、子ども自身を丸ごと受け止め、子どもの心の解放、子ども自身の持っている力を育てていくことを目的としています。

子どもたちが安心してかけられるために子どもたちと約束していることが4つあります。秘密はまもるよ。名前は言わなくていいよ。どんなことでも一緒に考えるよ。切りたくなったら切っていいよ。

子どもたちの声を聴くのは誰でもいいという訳ではないんです。研修をうけ、子どもの気持ちを受け入れ、最後まで子どもの話を聴ける人でなければなりません。自分がしゃべってしまったり、教えてあげるといふ気持ちの強い人は失格です。チャイルドラインは子どもの声を聴くボランティアの方なくしては成り立ちません。

夕方4時～9時 無償のボランティア、交通費も駐車場台も支払ってあげられない現状に私は心を痛めています。その上に「チャイルドラインで子どもたちの声を聴いています」と、世間には公表できない、あくまでも隠れたボランティアなのです。未来ある子どもたちのために時間をつくって、寒い日も暑い日も雨の日も、仕事で疲れていてもかけつけてくれて頑張ってくれています。和歌山は、毎週金曜日に実施していますが、1回に70件（5時間）、年間5,000件の電話を受け止めています。受話器を置くと、すぐに鳴ってくる状態です。

中にはもう聴きたくないという内容のものや、怒られるものもありますが、子どもたちの次の一歩につながると信じて皆さん聴いてくれています。

そんな中に大人が子どもをよそおってかけてくることがあります。その時間は子どもがかけてもつながらないんです。私は本当に許せないんです。私たち大人がこんなに子どもたちが生きづらい社会を作ってしまったのに、まだ子どもたちの邪魔をするの？せめて4時～9時の5時間、子どものための電話ぐらい子どもに保障してあげてよ！と言いたくなります。

知らない人にしか話せない、ということが子どもが抱えている大きな問題ではありますが、チャイルドラインは知らない人に聞いてもらうことで次につながる一歩となっています。

(例) いじめに関するもの

- ・ いじめられている子ども一学校に行きたくない、親には言いたくない、なぜなら心配をかけるから。親に話してもちゃんと聞いてもらえないから。親に言っても解決しない
 - ・ ・ ・むしろ騒ぎが大きくなるだけだから。
- ・ いじめられるのではないかと不安な子
- ・ いじめをみているだけのいやな自分
- ・ 友だちだったのにいじめる側に入ってしまったつらさ。そして、私たちなんでこんなことしてしまうんだろう。

子どもたちは聴いてほしいんですね。話を遮らないで最後まで聴いてほしいと思っています。

いじめられている子どもの場合

やっと打ち明けてくれた子にそのぐらい大したことないから気にしなくていいよ頑張るってね。という励ましはもっての外です。辛かったね、よくがんばったんだね、勇気を出してよく話してくれたね、どうしたらいいか一緒に考えようか、あなたの近くにあなたの話をきいてくれそうな人が誰かいらないかな～、「いない」よく考えてみてあえて言うなら前の担任の先生かな。。。なんで気がつかなかったんだろう、話してみます。

というように自分でどうしたらいいか気づいていきます。

- ・ 嬉しいことでもいいですか
- ・ なにを話そうかなー
- ・ ちょっとかけてみたかっただけ
- ・ 寂しかったから
- ・ 今、誰もおうちにいないの

一見なんでもない電話ですが、これからも子どもの姿が見えてきます。話さない子ども、話せない子ども、コミュニケーションをとれない子どもとよく言われますが、子供たちは何度も聴いてもらうことで自分の気持ちを話せるようになるのです。きいてもらう経験を積み重ねて人の話がきけるようになっていくのですが、私は子育て支援をする中で小さい頃からきいてもらう経験が少なく常に「ああしなさい、こうしなさい」とか答えをすぐに親が出してしまったり、正論を先に言われると言い返せないという状況を繰り返してきたりして成長してきた結果、自分の気持ちを話すことが下手になってしまったのではないかと思います。私は電話の限界ということを感じています。事実かどうか確認できないという電話の限界を押さえて、最大限一緒に考えることしかないんです。電話の向こうに起こっている

こと、起こそうとしていることに関わることはできません。でも一緒に考えることができる。それしかありません。

(例) 親にあんななんか死んでしまえと言われた。
死にたい。包丁で首を切ったら死ぬますか？
・・・最初から正論、「死んだらダメ。命は大事よ」とは言いません。

- ① つらさを受け止めることからはじめ、死ぬということから離れてもらいたいのので日常的な会話をさらっとする。
- ② お腹がすいたのでごはんを食べたい、と電話の途中でご飯を食べて、最後に
- ③ お父さん、お母さんが帰ってくるのがいつも遅いので寂しいことを話す。
- ④ 死ぬと思いつめていたことが現実の自分に戻って元気に「ありがとう」と言って電話は終わりました。

チャイルドラインは全国的には子どもたちがお金のことを心配しなくてかけられるようにフリーダイヤルでかけることができます。チャイルドライン議員連盟があり、全国的な企業の寄付等で年間1800万円の電話代で成り立っています。私たち地域は和歌山の子どもたちにかけるたい時にかけるチャイルドラインの番号を書いたカードを届けています。15万枚必要です。カードは子どもたちにとってお守りのようなものかもしれません。世の中の大人の人にも子どもたちに寄り添うチャイルドラインがあるんだと知ってもらうためにポスターも必要です。県内全ての学校はもちろん、子どもたちの目につく場所にポスターを貼らねばなりません。そして電話をかけてくる子どもたちの声を受けとめるボランティアの方なくしてはチャイルドラインは成り立ちません。私は何の見返りもない、むしろ隠れていなければならないボランティアの方たちにせめて交通費補助ぐらいは差し上げたいし、ボランティアの方の人材育成等研修のための経費もなんとかしたいと思っています、本当に地味だけど、子どもの未来に関わるとしても大事なものと思っています。

次の世代を担ってくれる子どもの未来を考えるのは大人の責任です。子どもたちの心に寄り添い、今を受け止めていくことで子どもたちの命を守り、安全で安心して暮らせる未来を作っていく支援をしたい、これからも研鑽をつんでいきます。

子どもの権利条約にうたわれている子どもの最善の利益を実現するために子どもの声をしっかり受け止めていきたいと思っています。

チャイルドラインわかやまをなくさないで継続していくためのご支援・ご協力をよろしくお願いします。年間基本的な経費が50万円かかります。子どもたちのための寄付文化が当たり前になったらいなと思っています。ご清聴ありがとうございます。

あなたもチャイルドライン サポーターに

「チャイルドラインわかやま」を実施するための資金作りへの協力をいたいただけますようお願い致します。たとえば、1000円で、10人の子ども達が10分電話で話ができます。または電話番号を印刷したカードを500枚子ども達に手渡すことができます。

子どもNPO和歌山県センターは、子どもたちに社会体験や社会参加の機会を届け、自由で伸びやかな「子ども時代」を過ごし、豊かに育ち守るための活動をしています。

それらの活動のひとつとして、1995年12月から「チャイルドラインわかやま」を実施してきました。チャイルドラインは子ども専用電話です。

「他人にとってはお荷物」でも、受け止めて、しっかり聞いてくれる人がいる。そんな幸せが捨てたとき、子どもは自分自身で答えを見つけていけるようになります。チャイルドラインは、子どもの自立を支える新しい社会システムなのです。受け止めた子どもたちの声は社会に還元し、子どもとおとなが信頼関係を育み合える社会作りを貢献したいと考えています。

チャイルドライン わかやま



心配なこと
悩んでいること
うれしいこと
腹が立つこと

誰かに聞いてもらいたいこと
なんでも話せるのがチャイルドラインです

特定非営利活動法人
子どもNPO和歌山県センター

〒640-8028
和歌山市近町 29
開局時間：月～金（10:00～18:00）
TEL 073-432-3664
FAX 073-402-1243
E-mail kodomo-npo@n1.net
HP <http://kodomo-waka.org/>

チャイルドラインわかやま 寄付金票			
お名前		支資金	円
住所		電話	()
備考			

支資金：個人 1,000円・団体 10,000円（一口）
支資金をお振り込みの場合は、下記口座をご利用ください
〈郵便振替〉00970-6-160077
加入者名 特定非営利活動法人 子どもNPO和歌山県センター

チャイルドラインとは

子どもを取り巻く状況が思わぬとき、子どもの声に耳を傾け、その声を受け止める、子どもの声によりそひるとの大切さを感じずにはいられません。子どもの親をしっかりと受け止めて、理解を示す人がいるならば、子どもは自分の力で歩いていける一歩を踏み出すことができます。

子どもがだれかと話したいとき、どんなことでも耳を傾ける。そんな子どもたちの専用電話がチャイルドラインです。

匿名でかけられる電話だからこそ、話せることがあります。秘密は守ります、大人の返信を押しつけたり評価したりしません。イヤだと罵つた電話を切つていいのです。主権は子どもにあります。何より子どもたちが信頼される電話でありたい。わたしたちはそう思っています。

受け止めた子どもたちの声を聞きつづねなしにせず、子どもたちの状況を社会に伝えていくのも大切なチャイルドラインの役割です。

子どもたちと一緒にどんな社会をつくって行くのか。チャイルドラインに配慮しながら、子どもや若者の問題を広く社会に訴えていきます。

2006年チャイルドラインわかやまセンター発祥地

フリーダイヤル0120-99-7777

2008年11月10日スタート

毎月～土曜日 4時～21時

どんなことでもいいよ。電話待ってるよ!

注：特定非営利活動法人チャイルドラインわかやまセンター 連絡：2006年6月 設立地：和歌山

なまえは言わなくてもいい
切りたくなったら切つていい
ヒミツは守る
どんなことでもいっしょに考える



誰かに、何か、話したいとき
でも…
親には話せない
先生には話せない
友達には話せない
無視されて つらいことも
好きになつて げつないことも
生きていいのか 送つことも

そんな時があつたら電話をかけておいで
苦しさは半分、よるごは誰に
話をするって そういうことだよ
ゆかいな話も
助けてっつて叫びも
私たちがいいのなら
聞かせてほしいな